

平成27年度第1回地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 議事録

日 時	平成27年7月17日(金) 午後4時00分から
場 所	福岡国際ホール 大ホールA
出席者(委員)	医療法人佐田厚生会佐田病院 院長 佐田 正之 福岡市医師会 副会長 長柄 均 福岡県看護協会 会長 花岡 夏子 公認会計士 行正 晴實
事務局	福岡市保健福祉局局长, 同理事, 同健康医療部長, 同医療事業課長, 福岡市立病院機構理事長, 同副理事長, 同本部運営本部長, 同法人運営課長, 同総務課長, 同医事課長, 福岡市民病院事務部長, 同総務課長
会議次第	1 開会 2 局長挨拶 3 委員紹介等 4 議事 (1) 委員長・副委員長の互選 (2) 評価委員会の進め方について (3) 平成26年度財務諸表について (4) 平成26年度業務実績について 5 その他
配付資料	1 平成27年度福岡市立病院機構評価委員会の進め方 2 地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領 3 地方独立行政法人福岡市立病院機構 財務諸表 4 地方独立行政法人福岡市立病院機構 平成26年度決算について 5 地方独立行政法人福岡市立病院機構 平成26年度に係る業務実績報告書 6 平成26年度業務実績報告における各小項目の自己評価結果一覧 《参考資料1》平成25年度評価結果報告書 《参考資料2》主な指標値にかかる全国の類似病院との比較

1 委員長及び副委員長の選任について

※委員長、副委員長を委員の互選により選出。

2 評価の進め方について

※資料1～2について、事務局から説明。

○委員

ウエイトについてもこの評価委員会で決めるのでしょうか。

○事務局

ウエイトは昨年度の評価委員会で決めていただいていますので、本評価委員会におきましては、5段階での評価をしていただくということになります。

○委員長

ウエイトについては、昨年度決めておりますので、本評価委員会におきましては、まず小項目の評価をしていただき、その後中項目、大項目の評価を決めていくというシステムにしております。

○委員

参考資料1の61ページでは、自己評価はウエイト1、評価3であるのに対して、委員会評価はウエイト2、評価3になっていますがこれはどういうことでしょうか。

○事務局（運営本部）

ウエイトについては、中期目標、中期計画の初年度である昨年度の評価委員会で決めていただいておりますので、第2期中期目標期間中は昨年度決めていただいたウエイトで評価していただくということになっております。

3 平成26年度財務諸表等について

※資料3～4について、法人事務局から説明。

○委員長

こども病院につきまして、移転に伴う減収の概略を教えてください。

○事務局（こども病院）

6月まで新人看護師が研修のため夜勤ができなかったため病床を制限していましたが、7月から夜勤ができるようになりましたので、入院、外来ともに順調に伸びております。

○委員長

市民病院の別館について、利用状況、効果はどうなっていますか。

○事務局（市民病院）

昨年度9月1日に稼働を開始してからは、救急搬送件数は増加しており、平成26年度は2,800件余りになっております。それに伴い手術件数も増加しており、増収につながっております。

感染症病床については、MERS等が発生しても対応できるようにしており、既にマニュアル等も完備しており、博多港で発生した場合を想定した検疫所との合同訓練も実施し、福岡空港での発生時の訓練も計画しております。

○委員長

市民病院の26年度決算について、材料費が前年度を大きく上回っていますが、診療内容の高度化に伴うものでしょうか。

○事務局（市民病院）

ご指摘のとおり、前年度に比べて約2億円上回っておりますが、脳神経外科、循環器内科、血管外科等の血管内治療を必要とする患者が増えたため、材料費が増加しております。また、新しいC型肝炎の治療薬が1錠約6万円と高額であるということも原因となっております。しかしながら、これらは全て収益につながっております。

○委員長

今言われた医療材料については、共同購入はできないのでしょうか。

○事務局（市民病院）

他の全国展開している病院のように共同で購入するということができません。地方独立行政法人同士での連携もまだ難しいので、病院機構としてコンサルタントに入ってください、市場価格を確認しながら購入しています。

○委員長

こども病院は移転しましたが、患者さんが新病院に来院するためのアクセスの状況はどうなっていますか。

○事務局（こども病院）

新病院への公共交通機関については、まだ便数が少ない状況なので、整備は不十分です。駐車場については、駐車台数はまだ余裕がある状況です。今後、高速道路が整備されたら患者さんも来院しやすくなるのではないかと期待しています。

○委員

民間病院の経営者の立場から発言します。こども病院については、建設移転したので収支状況が悪くなるのは重々承知しております。

平成26年度の病院機構全体の当期純利益は約980万円余りになっておりますが、運営費負担金があるので、そのことを勘案すると24億8千万円余りの赤字ということになります。

こども病院の移転による収益の落ち込みを市民病院で補っているということになっていると思いますが、市民病院は病床稼働率が89.7%で、入院単価や手術件数が

目標値を大きく上回っており、収益は上がっています。しかし、経費、特に人件費率が高いため、利益が少ないということになっていると思います。

こども病院については、移転しているので病床稼働率が低いということはわかりませんが、今後は目標どおりにいくのではないかと思いますので、来年の実績に注目したいと思います。

○事務局（市民病院）

資料4の3ページの市民病院の収支計画ですが、15行目の給与費について、平成25年度に比べて約1億円上昇していますが、これは給与費が上昇したのではなく、退職給与引当金が増加したことによるものであることを補足します。

○委員

参考資料2の2枚目の市民病院の給与費対医業収支比率について、病院経営においては、50%がボーダーラインと言われていますが、市民病院は55.9%と高い比率になっています。人件費の中に、福岡市からの派遣職員の給与は含まれているのでしょうか。

○事務局（市民病院）

福岡市からの派遣職員2名分の給与は含まれています。

○委員長

人件比率は高い状況ですが、独法化前に比べたら非常に良くなっている、努力していると思います。

また、入院単価についてはとても高い数字であり、大変な数字です。救急医療等で本当によく頑張っているという姿がこの数字に現れていると思います。

○委員

今回初めてなので病院の状況がわからないのですが、民間病院ではできないことをやるというようなミッションに加えて、こども病院の移転経費が必要だったということで、赤字を想定されていたと思いますが、結果として900万円余りの黒字というのは本当に良かったと思います。

貸借対照表の利益剰余金合計が42億円余りあり、その中の前中期目標期間繰越積立金が31億円余りということで、それは中期計画に定める用途に充てるということですが、病院機構のミッションとは何でしょうか。

○事務局（市民病院）

全国に自治体病院が約900あり、多くは医療過疎地をなくすというミッションがあります。都市部の自治体病院のミッションは、民間病院では提供できない高度救急医療、高度専門医療を幅広く提供することです。また、感染症対策、災害対策に対応するというのもミッションの1つとなっております。

○事務局（こども病院）

こども病院は、高度専門医療、小児救急医療、周産期医療がミッションです。高度

専門医療では先天性心疾患の治療を行っており、九大病院でもできないような最重症系の先天性心疾患の治療を行っております。そのため、治療、看護に人手がかかり、とても繊細な医療が必要になってきます。最近では、周産期医療において、TTTS（双胎間輸血症候群）という特殊治療を行っており、費用を要しております。重症系の患者については、入院が長期になるため収益が落ちます。その点についてご理解をお願いします。

○委員

こども病院については黒字化することは本当に難しいことだと思います。心疾患や難病治療を進めていただいて、日本を代表する病院になってほしいと思っております。小児の外傷は九大病院にお願いするという形をとっていたと思いますが、こども病院と九大病院の棲み分けはどうなっているのでしょうか。

○事務局（こども病院）

2次から2.5次の救急医療についてはこども病院で受け入れるようになっていますが、3次救急については、九大病院になっています。交通外傷は九大病院にお願いしています。

○委員長

今言われましたこども病院、九大病院、民間病院それぞれの受け入れ対象についての啓発はこれから必要だと思います。

○委員

こども病院においては、昨年の移転という大きなイベントを終えられて、7月からようやくベッドをフル稼働できるようになったということで、とても良いことだと思いますが、小児の高度医療に従事する新人の看護師については、時間をかけてでも教育していただきたいと思います。新人看護師のサポートをお願いします。

市民病院については、入院、外来単価が非常に高く、高度、救急医療に本当に頑張っておられることを実感しました。

財務諸表1ページのところに医業未収金が計上されており、業務実績報告書においても実施状況等が記載されていますが、これは患者さんが医療費を支払わなかった金額ということでしょうか。これは増えているのでしょうか。減っているのでしょうか。

○事務局（市民病院）

未収金につきましては、市民病院で平成21年度から25年度までの間で残高は約2,300万円となっております。平成26年度は5月末現在で約1,000万円となっております。年間当たりで約500万円残っているという状況です。内訳としては、生活困窮者、保険未加入の方、すでに亡くなられている方、時間外救急で来られた方、悪質な滞納者等です。生活困窮者の約1,000万円は市立病院として、立場上なかなか回収は難しいと考えられますが、悪質な滞納者等には督促状の送付、少額訴訟等による回収作業を進めております。

○委員

財務諸表3ページの損益計算書の過年度損益修正損の約2億6千万円と移行前地方債利息等の約1億7,800万円について教えてください。

○事務局（運営本部）

移行前地方債利息等については、独法化前から建物や医療機器を購入した際の企業債の借入金に対する利息です。

過年度損益修正損については、旧こども病院を建設する際の委託料や一部職員の給与等についての建設仮勘定として資本的収支に計上していましたが、間接的な経費等については収益的収支にすべきことが判明したため、今回計上したものです。

4 平成26年度業務実績について

※資料5～6について、法人事務局から説明。

○委員

単純に比較して見っていますが、良質な医療の実践について、昨年度の評価3から今年度の評価4に上げた理由を教えてください。

○事務局（市民病院）

自己評価については、年度毎に策定する年度計画に対するものでありますので、過年度と比較するものではないということをご理解ください。

○委員長

偶数ページが中期計画、年度計画で、奇数ページが自己評価、委員会評価を記載するようになっています。

○委員

良質な医療の実践については、こども病院や市民病院の医師が学会等で発表した優れたデータなどを掲載するとわかりやすいと思いますが、そのようなデータがあるかどうか教えてください。

○事務局（市民病院）

19ページをご覧いただきたいのですが、高度専門的な医療の提供や患者の満足度等に関する実績値等のデータを記載しておりますが、これら手術件数等の増加を良質な医療の実践・提供等できていると捉えているところです。よって、自己評価としましても4としています。

○委員

23ページのこども病院の逆紹介率について、年度計画の目標値の27.5%に対して、実績値が58.1%となっているが、目標値が27.5%と低く設定しているのは何か理由があるのでしょうか。

○事務局（こども病院）

逆紹介率については、平成22年度は、20%前後の実績値であったので、それに基づいて、中期計画の目標値を設定しましたが、その後、地域医療連携室を設置したことにより登録医が150人を超え、表敬訪問しています。また、合同カンファレンス等も開催するようになったこともあり実績値が高くなっています。

○事務局（市民病院）

補足しますが、こども病院の患者の住所地は市内の方が4割で、その患者については逆紹介で対応していますが、県外の方が半分近くいて、逆紹介できていないので率としては低くなっています。今後改善していきたいと考えています。

○委員

地域連携について、重症の患者が治療が終わり在宅に戻るときに、訪問看護ステーションでは診られないということを知ることがあります。

○事務局（市民病院）

大きな課題として受け止めています。

○委員

今回、市民病院が第2種感染症病床を受け入れていただき、民間病院としては大変に助かっています。別館を建設され本当に良かったと思っています。

○委員

31ページの福岡市民病院の患者サービスについて、満足度調査の平均評価点が前年度より若干下がった程度で、目標値を大きく上回っているのに、自己評価3とした理由を教えてください。評価4でもいいのではないかと思います。

○事務局（市民病院）

日本病院会の満足度調査のデータにおいては、大規模病院の平均がほぼ9割だったので、市民病院の実績値は普通程度と判断し、評価3としています。

○委員

51ページの医師の人事評価制度について、3年間試行した後に平成26年度から正式に導入したとのことですが、医師の反応を教えてください。

○事務局（市民病院）

現場では一長一短あり、マイナス査定の場合は、衝撃的なショックを受けている場合も見受けられました。目的は効率良く業務に従事していただくことなので、適正に査定しています。職員はよく頑張っていると思います。

○委員

こども病院は立派な病院が完成したと思います。51ページに記載されている職場環境の整備について、これからの病院は働く職員のアメニティを善くすることがテーマになってくると思います。病院内で医師、看護師に対する職場環境を整備したことがあったら教えてください。

○事務局（こども病院）

ハード面については、看護師の更衣室を拡充し、ソフト面については、ワーク・ライフ・バランスに関するインデックス調査を実施しましたので、それを基に今年度アクションプランを作成し、今後実施するよう計画しています。

○委員

新病院の整備及び運営に関する取組について、自己評価を5で評価しており、5で評価したのが初めてということだが、私はこれでいいと思っています。判断理由については、もっと記載してもいいのではないかと思います。

○委員

新病院の整備及び運営に関する取組について、実際に動き出して、ここはこうしておけば良かったというところが必ず出てくるとは思いますが、パーフェクトをつけているのではないかもしれませんが、導線が短い方が良かったとか、スタッフが働きやすくなっているかなど、具体的な改善点はないのでしょうか。

○事務局（こども病院）

新病院においては、病棟間を短距離で往来できるよう環境整備しています。

○委員

問題は発生していないということでしょうか。

○事務局（こども病院）

特に大きな問題なく業務を遂行しています。

○委員長

大項目3の自立性・機動性の高い運営管理体制の充実について、運営に関してスタッフがどのようなことに、どの程度積極的に参加しているのでしょうか。

○事務局（運営本部）

市立病院の時との比較がわかりやすいと思いますが、独法化前は、規則や条例に基づいて業務を遂行し、経営改善という意識は低かったのですが、独法化後、自分たちで経営していかなければならないという意識に変わったと思われまます。物品を購入する場合でも、どのように購入したら少しでも安く購入できるかと考えるようになり、また、経営会議などの場で様々なことを職員が提案するようになりました。こういう点は独法化後の5年間で変わったと思われまます。

○委員長

病院の課題をどう経営に反映していくかという職員間の意識が高まってきていると思われまます。また、今回の新病院の移転については、職員が一致協力しなければできないことだと思われまます。このことから、大項目第3の1 自立性・機動性の高い運営管理体制の充実についての評価は3ではなく、4でいいのではないかと思います。

また、経営基盤の強化の運営費負担金の縮減に向けた経営基盤の確立についても評価4でいいのではないかと思います。民間病院との比較ということになると運営

費負担金があるので、難しい判断になります。

収支改善についても評価4が妥当と思われる。また、新病院の整備及び運営に関する取組については、委員から評価5は妥当という意見がありましたが、新病院の移転業務というのは大変な作業なので、評価5は妥当だと思われる。

資料6の自己評価の中で各委員から評価が高いという意見はありませんでした。全体を通じてその他ご意見はありませんか。

○委員

収支改善について外部コンサルタントを活用され効果があったのでしょうか。また、市民病院のジェネリック医薬品導入率は全国平均に比べて低いように感じますが、どうなっているのでしょうか。

○事務局（市民病院）

市民病院のジェネリック医薬品の導入率は、品目ベースでは29.1%ですが、数量ベースでは、67.8%になっております。

○事務局（運営本部）

独法化後に、診療材料と医薬品のノウハウを持っているコンサルタントと個別契約し、価格交渉に入ってもらっています。民間病院等と比較することはなかなかできませんが、薬品に関して、全国公立病院統計と比較しましたところ、値引率は上回っている状況です。また、平成26年度は、新病院の医療機器を購入したのですが、コンサルタントに価格交渉に入っただき、市場価格が28億円だったものを25億円ほどで購入しております。

○委員長

今後策定される地域医療構想において、どういうところに位置づけされるのか、どういう専門機能を発揮するのかということを確認させ、役割を果たしてもらいたい。

また、スタッフの件ですが、看護系大学が増加傾向にあるので、今後も、看護教育について協力していただきたい。

また、市外の方の受診が増加していることで、市民病院ということから財政上の問題が出てくるかもしれませんが、公的な病院の役割を鮮明にすることにより、そのような問題はクリアされると考えられる。

○委員

理事会等において、月次決算の数字を検証していると思います。一般的に月遅れの数字が掲載されることが時々あるようですが、こちらは何日に月次決算の締めをされているのでしょうか。また、参考資料2の東京都立小児総合医療センターについて、他に比べて極端に率が低い箇所がありますが。

○事務局（こども病院）

参考資料2の件については、本日回答できないので次回お示しします。

○事務局（運営本部）

月次決算については、医療機関の特性として診療報酬が2ヶ月後しか入ってこないということがありますので、その数字での月末締め月次決算を行っています。このことは、内部の会計支援の法人からも指摘されていることですが、特に支出について、詳細なところまでは詰めきれていないのが現状です。

○委員

ネックのところは問題になるのでできるだけ直していただきたい。

○委員長

今後の検討課題ということでよろしくお願いします。

○委員長

事務局から何かありませんか。

5 その他

※事務局から2回目の日程について説明。

○委員長

それでは、本日の委員会は、これを持ちまして終了したいと思います。